

トルコで18日から

108選手がメダル狙う



デフリンピック壮行会

ろう者の国際スポーツ大会「デフリンピック」の今夏の大会（トコ・サムスン県）に参加する日本選手団112人の壮行会が6月28日、参議院議員会館で開かれた。日本は108人の選手が陸上、バドミントン、サッカーなど11の競技に参加するが、私たちが4年前の大会でメダル獲得数は21個だったが、今回は25個が目標という。

壮行会はデフリンピック派遣委員会（委員長 長 石野富志三郎・全日本ろうあ連盟理事長）主催。団長、監督、選手を、同日に発足した国会議員によるワーキングチーム（WT）の議員、文部科学省、厚生労働省の関係者らが激励した。

WT座長の衛藤晟一・参議院議員（総理大臣補佐官）は安倍晋三首相の応援メッセージを代読。また、鈴木大地・スポーツ庁長官がトルコに行くついでに話を交えながら「私もトルコに行くついでに話を交えながら」と話すと、選手団から大きな拍手を浴びた。

早瀬久美主将（自転車競技）は「とても緊張しているが、私たちが活躍を2020年の東京五輪・パラリンピックに結び付けていければと思う」と抱負を述べた。

大会は7月18～30日に開かれ、73の国と地域から約3000人が参加する。デフリンピックは1924年にフランスで第1回夏季大会が開かれ、4年に1度開催される。60年に第1回夏季大会が開かれたパラリンピックよりも歴史は古いが、認知度は低い。

（福田敏克）